



向日葵

おてんとさまの車の輪、
黄金のきれいな車の輪。

青い空をゆくときは、
黄金のひびきをたてました。

白い雲をゆくときに、
見たは小さな黒い星。
天でも地でも誰知らぬ、
黒い星を轆くまいと、
急に曲った車の輪。

おてんとさまはほり出され、
眞赤になつてお腹立ち、
黄金のきれいな車の輪、
はるか下界へすてられた、
むかし、むかしにすてられた。
いまも、黄金の車の輪、
お日を慕うてまはります。



「共生ホームひまわりの家」の活動と事業について

ひまわりの家は今年4月に5周年を迎えます。

「共生ホームをつくり育てる会」の総会が開かれ、5年間を振り返ってひまわりの家の事業活動について総括しました。総会の資料を基にひまわりの家の活動と事業について報告します。

◆ 共生ホームひまわりの家は富山で開かれていた「地域共生ホーム全国セミナー」から学び、老所ひまわりの家の活動から生まれました。
2007年10月土地を購入、2008年1月 共生ホームをつくり育てる会」が結成され運動が開始されました。
2009年1月建設委員会を結成、共生ホームひまわりの家の建設計画をまとめる作業が始まりました。
当初公的融資や補助金をと検討しましたが、共生とはどんな人でも排除しないで包み込む、その人なりの居場所があつて、かがやいている「この共生ホームの理念に合う 制度」がなく、自己資金で建設することになりました。
土地代2,000万を除いて建築費7,800万円を、府保証協会から1,200万円の融資を受け、6,600万円を「育てる会」の有志と130余名の方からの募金、出資金で何とか建設できました。

◆ 2010年4月 共生ホームの理念に基づき、ケア付賃貸住宅の事業、介護保険デイサービス事業を中心に、ふれあいサロン、配食サービス等の事業を始めました。
◆ 賃貸住宅事業は4月開所時4名の入所者で出発しました。空き部屋はショートで利用され、長期の利用者に活用されました。
◆ デイサービス事業は4月開所時、利用者は入居者が中心で35人(1日)の利用者でした。
2011年から急速に利用者が増え、ショートステイと併せてデイサービスを利用する利用者もあつてスタッフ体制の強化が必要になりました。
◆ 2012年には新しい利用者も増え、最高20名の月もありましたが、一方やめられる方もあり、月平均の利用者は15名にとどまっています。
◆ 2013年度は利用者が固定するようになり、人件費も抑えて、初めて黒字になりました。
◆ 2014年度は平岡さんが亡くなられ、長期の入院される方が相次いだため保険収入が大きく減少し、赤字になりました

介護保険の事業は小規模の事業

所にとって、利用者の変動によって収入が大きく左右されます。
◆ ふれあいサロンはボランティア活動としてつづけられ、共生ホームひまわりの家の原点でもありましたが、ボランティアの高齢化によってやむを得ずお休みになりました。

◆ ショートステイ(自主事業)、配食サービス、については当初少しの利用がありましたが、体制の問題もあつて休業状態です。

◆ ひまわりの家の5年間でふり返つていつまでも住み慣れた地域で最後まで暮らせるようお手伝いができる「施設」として事業活動を行ってきました。

経営は苦しく困難な状況ですが、この中で稲田ノブ、平岡八重子さん、中森昌江さん、門脇清子さんを「看取り」できたことは幸せでした。

遠地昭典





稲田ノブさん



写真(左)

第3回ひまわりまつり

(前列右端)

門脇清子さん



子どもが大好きでした

平岡八重子さん(右)



お友達と楽しそう



中森昌江さん 大正琴の演奏

共生ホームひまわりの家 ひまわりまつり(第5回)



と き 2015年4月19日(日)AM11:00より
ところ 共生ホームひまわりの家

ご支援いただいている地域の皆さん、楽しいひとときをひまわりの家で
過ごしてください。バザー、模擬店等、文化行事をお楽しみください。

ひまわり自然市(無農薬、有機栽培野菜)
模擬店(炊き込みご飯、フランクフルト、コーヒー等)
よろず相談会(介護、福祉、保育、教育、子育て等)
文化行事(コーラス、民謡、学童っ子の遊び等多彩な催し)

遠地昭典

住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし、最後は病院ではなくひまわりの家で迎えられるよう、そんな願いを込めて共生ホームひまわりの家は5年前に開設されました。これまでに4人の方がひまわりの家で看取られ、それぞれ私たちに感動を与えてくれました。

稲田ノブ 2011年7月亡 88才
平岡八重子 2013年11月亡 101才
中森昌江 2014年10月亡 98才
門脇清子 2015年2月亡 87才

平岡八重子さんは101才で最高齢でした。亡くなる前日まで普通どおりの食事をして、翌日の朝 おはよう」の呼びかけにもしっかり応じていました。リビングで食事中に意識が薄れてベットに横になり、そのまま眠るようになり、そのまますぐに亡くなりました。

見事な「天往生」、看取った2人の看護師は大きな感銘を受けたようです。

中森昌江さん、門脇清子さんも安らかに眠ったような死顔でした。

人の死は自然なことです。誰もが生きて生き抜いて死を迎えます。その人にとって最もふさわしい最期の場所が「ひまわりの家」であつたとしたら幸せなことだと思います。

このような「看取り」ができるのは、自分の家で最後を迎えることができるからだと思います。

共生ホームひまわりの家はそのような「自分の家」です。

ひまわりの家でもともに生きて「看取り」をさせていただいた4人の方に感謝しています。ありがとうございます。



デイサービスの風景

(左) ボランティアさんのマジックショー

2015年1月18日(日)ひまわりの家で「共生ホームをつくり育てる会第8回総会」が開かれました。

総会では育てる会の活動報告、共生ホームの事業活動報告が行われ、2015年度の活動方針とともに新しい役員体制を決めました。

2部の懇親会ではこの5年間の活動について率直な感想、意見が出されました。

2015年度役員体制

会長 門谷充男
副会長 鴻上圭太 伊藤真美子
事務局長 遠地昭典 会計 秦康子



木の温もりと太陽の光がいっぱい入る
ダイニング、家庭的なスイートホーム
の雰囲気大切に
定員10名のゆったりと過ごしていた
だけのデイサービスです。
ご自宅でご過ごされるような、落ち着いた
空間があります。
介護保険の認定を受けていれば、どなたでもご利用できます。
見学体験利用も随時承ります。
お気軽にご連絡ください。

